

—— チェルノブイリに思いをよせて ——

ポレーシエ

〈ミルクキャンペーン〉〈カードキャンペーン〉 であなたの心をウクライナへ!

恒例のこれらのキャンペーンでは、たくさんの人々の思いを、粉ミルクやカードに添えて、現地の放射能被災者に贈ります。人は、食べ物だけでなく、医薬品だけでなく、「優しい心・暖かい言葉によっても、“生きる元気”が湧いてくるものだ」と言う事を、毎年この季節に実感させられます。今年も、このミルクキャンペーンに、多くの人がカンパや労力を寄せてくれています。



〈星美学園の生徒さん達〉

静岡・星美学園でも、大勢の生徒さん達が、ミルクの箱にシールを貼る作業に携わってくれました。その他の各地の皆様も、ご協力本当にありがとうございます。

チェルノブイリ救援・中部は、日本とウクライナの人々の橋渡し役を、しっかりと担っていきたいと思っています。

《事務局》〒466 名古屋市昭和区楽園町137-1-10

チェルノブイリ救援・中部 代表：神野英樹

【郵便振替】00880-7-108610

☎FAX:052-836-1073 (月・水・金・10:30~15:30)

(問い合わせは、お名前とシールの番号を明記し、返信用切手を同封の上、なるべく郵便でお願いします。)

< 96 ミルクキャンペーン >

12月31日まで!!

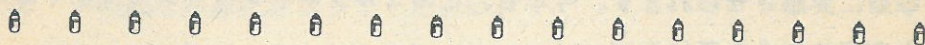
“粉ミルクは、ウクライナのどの母達にとっても、被災者に対する日本人の関心を表す物資であり、あなた方の友好の気持ちの現れと受けとめられています。

フェニールアラニンレスミルクは、真にかけがえのない援助・子ども達の命を救う贈物です。” —「移住基金」キリチャンスキーさんの10月29日付FAXより。—

すでに、ミルク代を振り込んでくださった方々、本当にありがとうございます。さらに、お友達に支援の輪を広げていただけるよう、よろしくお願いいたします。

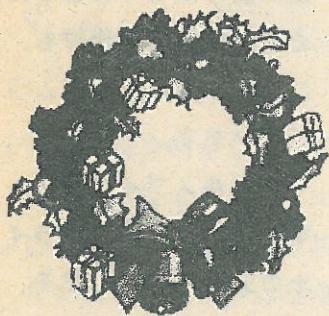
.....ウクライナのお母さん達の苦悩の涙が、喜びの涙に変わる事を祈って.....

96ミルクキャンペーン担当/救援・一宮 つぼみを守る会



‘96年ハート・to・ハート・キャンペーン

原発事故から10年目のクリスマスを迎える被災者家族、なつかしい故郷を捨てた移住者たち、今も汚染地域で心細い冬を迎える住民たち、小児病院のベッドでクリスマスを迎える子どもたち。こんなチェルノブイリの子どもの心にはほんのりと温かい灯をともしあげたい、そんな気持ちで始めた「カード・キャンペーン」です。8000キロ離れた遠い日本からあなたを見守っています、元気で良いクリスマスと新年を迎えてね、と心を込めた1枚を送ってあげましょう。



要領:

- (1) 手製・市販のカードにメッセージを書いて封筒に入れ、封をしなくてさらに一回り大きな封筒で送って下さい。
- (2) チェルノブイリ救援・中部ではそれにロシア語の簡単なスタンプ（友情・心を込めて等）を押して折り紙などを同封します。
- (3) 集まったカードは一括して航空便で現地に送り、被災地の病院、学校、孤児院、汚染地域住民などに届けます。
- (4) 宛先：チェルノブイリ救援・中部事務局
- (5) 締め切り：12月15日厳守！

発送用のB5判封筒を包み紙などで作って下さると助かります。



<ウクライナ・ナロジチ病院の 水道キャンペーンが始まりました!!>

前号でも、お知らせしましたように、「絶対に、ナロジチ病院の給水・給湯設備を修理しよう!」と、<水道キャンペーン>がスタートしました。このキャンペーンは、<チェルノブイリ救援・名古屋>と、長野県の<伊那谷いのちがだいじ!連絡会>が、共同で行っています。

施工者・・・工事は、現地の技師が実施します。
工事代金・・・募金により、総額430万円を集めます。
着工・・・資金が集まる目途がついたら、すぐに始めます。
キャンペーン期間・・・10月1日から、430万円達成できるまで。



命の水贈ろう

チェルノブイリ被爆者

配管工事の力

チェルノブイリ被爆者

今も病む病院

ナロジチ病院の給水設備

必要な資金の総額も大きく、「工事」と言う形の支援は、初めての経験ですが、困難は覚悟の上です。<名古屋>が10月初旬に、<伊那>は11月からスタートしました。現在までに、<名古屋>で、およそ200万円集まり、好調な滑り出しです。

また、<伊那>では、1ヶ月遅れのスタートですが、「朝日・中日・毎日・信濃毎日」など、新聞各社が好意的に、記事として取り上げてくれました。中でも、「毎日新聞」は、長野県版のみならず、全国版の朝刊、夕刊に掲載され、遠くは札幌・岩手・福島・千葉・東京・横浜・静岡・などからも、「募金します!」と言う、嬉しい電話が入っています。

電話の中には、「今は、失業中ですが…」とか、「年金生活をしています。」という方もおられます。「感謝して、大切に使わなければ」と、身の引き締まる思いです。

*なお、「ナロジチ病院水道キャンペーン」についての、資料・チラシ・お問い合わせは、下記までお願いいたします。

連絡先	チェルノブイリ救援・名古屋	伊那谷いのちがだいじ!連絡会
郵便振替	00830-5-115315	00570-3-35445
住所	名古屋市昭和区茶園町137 茶園アパート 1-10	長野県上伊那郡南箕輪村9955-2 原方
☎/FAX	チェルノブイリ救援・中部気付 052-836-1073	☎/FAX 0265-78-9466 ☎ 0265-73-9355

セルゲイ君支援金 16万2千円に！

ポレーシェ35号で、悪性腫瘍に苦しむウクライナの少年・セルゲイ君の治療費のカンパをお願いしたところ、11月20日現在で16万2千円集まりました。

「一日も早く元気になられますように」「セルゲイ君が完治しますよう、少額ですが気持ちだけ送らせて頂きます」など、暖かい言葉を添えて36人の方からお送りいただきました。これで、およそ1年分の治療費の目途が立ちました。ありがとうございました。最新の情報では、血液検査の結果腫瘍の細胞が見られ、転移の可能性が残っている。とりえず常用している薬草の煎液の量を増やして様子を見る、ということです。ユーリさんの「将来どうなるか分かりませんが、今は息子は生きていますから、幸福になる望みがあります。」という言葉の励みに、さらに継続的な支援体制を整えたいと思っています。一層のご支援をお願いします。

お問い合わせ チェルノブイリ救援・岐阜 TEL/FAX 058(272)2348 新田幸子

カンパは郵便振り込みで

口座番号 00850-5-6531 「チェルノブイリ救援・岐阜」

通信欄に“セルゲイ君支援金”とお書き下さい。

おたよりコーナー

ビデオを貸して観てありがとうございました。
クラスのみんで見て、とても勉強になりました。
校内で10月後半から募金活動をしました。みんなが
チェルノブイリに関心を持ち協力してくれました。
そのおかげで2万3千円近く集まりました。
郵便振替で送りますので役立てて下さい。
それから、チェルノブイリの方に手紙を送りました。
喜んでくれると嬉しいです。

光陵中学校2年3組1、2班（桑名市）

代表 河瀬まり子・木本早帆子

今年もチェルノブイリの子どもたちに
クリスマスカードを作りました。
なお、このお金は送料の一部に使って
下さい。チェルノブイリの子どもたちに
主のお恵みがありますように。

雪の聖母幼稚園

イエス四年生

はしめまして

突然ですが、この前「チェルノブイリの子どもたちにクリスマスカードを届ける、と言うキャンペーンがあることを知りました。チェルノブイリ原発事故については会科の授業などで少し勉強しました。10年くらいも昔のことなのに、今でもその害にあっていられる人がいると聞き驚きました。同じ世界に住んでいるのに私は平和、一方で苦しんでいる人がいるなんて信じられません。

だから、少しでも力になればと思い手紙を書いています。

ぜひ、このキャンペーンの詳しいことを教えてください。お願いします。

府中市西原町 渡辺 智恵



竹内さんの手紙

<10月20日>

9月のグリブナ導入後、ドル・レートは1ドル=1.73グリブナ。地下鉄料金が20コペイカ(以前の2万クーポン)から30コペイカに、パン、新聞が3割方上がったことくらいで、市場での野菜などの値段はそれほど動いていないのではないかと思います。

10月18日付「全ウクライナ新報」によれば、「石棺」改修資金援助として、10月中にアメリカから600万ドルが届くとのこと。ヨーロッパ共同体からの援助も今年から始まる。第一段階の緊急援助は1~2年、その後は10~15年に渡るプログラム。また10月16日付同紙によれば、パリでのG7及びウクライナ代表団の交渉で、「石棺」に新たな覆いをつけるというプランは葬られ、石棺内から残留核燃料を運び出す(溜まっている水も。これは3000立方メートル)ことのほうが重要、とのことで意見の一致をみた。チェルノブイリ原発廃炉に向けてのヨーロッパ復興開発銀行からの1億1800万エキュの融資についても合意に達した。これは使用済み核燃料処分場及び個体・液体放射性廃棄物再処理工場の建設費に当てられる。その他、チェルノブイリ原発廃炉後の代替電力源としてのロブノ原発及びフメリニツキー原発の増設(各一機)への融資についても合意。両機の建設費は6~8億ドルと見積もられている、ということです。

10月5日、私の勤めているキエフ言語大学で、キエフ初の日本語弁論大会があり、小学生、中・高生、大学生の部それぞれ10名ずつが参加し、日本大使館から賞品も出てますますの盛会でした。ユーリ先生の教え子も4人入賞しました。私もこれに参加した学生の練習を手伝ったりして忙しくしていました。

知人(キエフ大学日本語学科を卒業した女性)が妊娠していて臨月なのですが、アパートの12階に住んでおり、この新築のアパートでは昨年以來エレベーターが一度も稼働しておらず、いざというときは救急車を呼ぶしかないと言っています。しかし救急車が来るのに30~40分くらいかかることがあるという話も聞いたことがあります。

<11月15日>

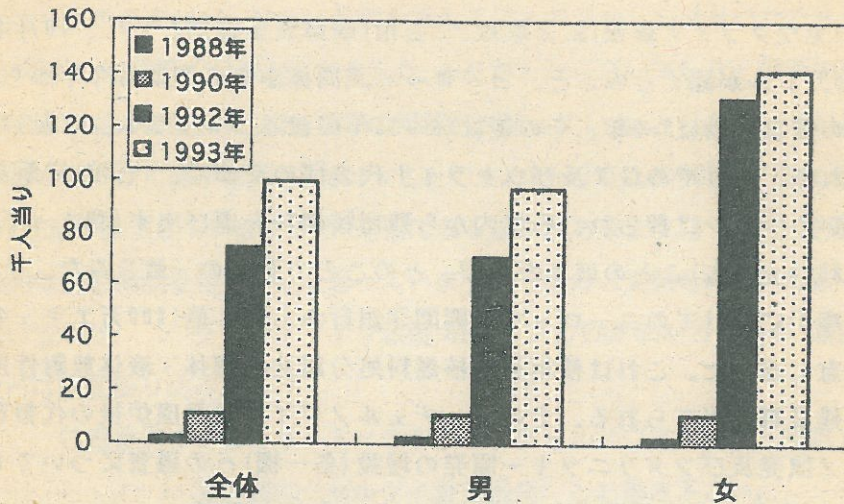
11月14日現在の気温は7~8℃で、例年に比べ暖かなのではないのでしょうか。私のアパートでは11月27日に、大学でも11月になって暖房が入りました。

現在1ドル=1.86グリブナまで上がっていて、市内交通の定期券は1.7倍と高くなり、地下鉄定期は19グリブナです。ジャガイモ1キログラム40ペイカ、イランあたりのコメ1キログラム1.5グリブナ、新聞「イズベスチャ」30ペイカ、立ち飲みのカフェで紅茶が50ペイカ。つきあいに入った輸入茶販売もと経営のこぎれいなカフェで一番安い紅茶が2グリブナ、これもつきあいに入った店で女性の冬物コートが550グリブナ、780グリブナ。いやー誰が買うのか、こんな店がどうやって成り立っているのか? 新聞記事によると、キエフの企業の4分の1は赤字経営。7月~9月、25%の企業が労働者を無給で自宅待機させており、15%が操業時間を短縮。

ラザレンコ首相のグラーツ(オーストリア)での発言によれば、チェルノブイリ原発1号機は11月30日に運転停止の予定とのこと。11月初め、ウクライナの15機の原発中11機が稼働しており、電力の40%を供給中だそうです。 (キエフより・竹内高明)

その後の作業班の人々

障害者になった作業班



10年前の原発事故の際、放射能をばらまきながら燃え続ける原発の消火や石棺の建設に当たったり、住民の避難誘導、汚染除去作業、作業員の救助等に当たった人々を、ウクライナでは「作業班の人々 (Liquidator)」と呼ぶ。旧ソ連全体では60万人とも言われる。ウクライナでは35万人が登録されている。私たちが支援しているジトーミル州からは5040名が参加した。以前講演に来ていただいた、アントニウクさん、オチュウカーノフさんもその一員である。作業班の人々は被爆線量がもっとも高く、事故の被害者の中で、身体的にも精神的にも最もつらい立場に置かれている人々である。旧ソ連政府の発表では事故直後28名が死亡した事になっている。

しかし、実際にはその後たくさんの

作業班従事者が亡くなっている。ウクライナ保健省発表では1988～1994年に5802名が死亡し、その70%が被爆労働に起因するという(毎年7～800名死亡)。

上のグラフは、今年4月講演に来日したジャーナリスト、コヴァレフスカヤさんにいただいたデータ(保健省作成)である。ウクライナの作業班のうち現在約10%(3.5万人)の人々が労働能力のない第1級障害者である。特に、その数が1992年頃から急激に増加していること、女性の方が男性よりも割合が高い事が注目される。心臓病や脳血管系、消化器系の病気などに悩まされ、仕事に就けない事から自殺者もあとをたたないと言われている。

(河田昌東)

<ウクライナからの伝言>

神野英樹

「個人的な性格のせいかもしれませんが、他を投げ捨ててもこの支援を行って来ました。」
私達のパートナー「移住基金」の代表・キリチャンスキーさんは、こう語り始めました。

権力やワイロやコネが横行するといわれるウクライナで、とても誠実な彼等に巡り会えて、私達は本当に幸運だったと思います。

「ボランティアだけのために、こんなに苦勞しているので、他人から「あいつは馬鹿なやつだ。」と言われます。」「しかし、病院の看護婦長さんや村長さんの涙が、私達にとっては、最高の報酬です。これだけで、私達の苦勞は報われるのです。」「たとえば、皆さんが「ナロジチ病院に、お湯が出るように!」と願う気持ちと、全く同じ気持ちを私達も持っています。」

今回もまた、彼等の献身的なサポートのおかげで、大切な救援物資を、本当に必要としている人達のところへ届ける事ができました。

「日本の人達と共通の願いが私達にはあるのです。皆さんを、素直に心から愛していると言ってもうそではありません。・・・」

今日も、次の支援のため、価値ある情報が、私達の事務所のFAXに送られてきます。



<事務局だより>

またたくまに、時は過ぎて行く。`96年も、あとひと月を残すところとなった。今年のチェルノブイリは、今までになく、様々な局面とそれに伴う葛藤を体験した。そのために、多くの時を費やしたが、よくも悪くも意味深いものがあった。

そんな時を経て、この秋から各地が精力的に動きだした。<一宮>では、地元の女性達が、手作りバザーなど、地域に根付いた催しを通じて、恒例のミルクキャンペーンを展開している。<岐阜>では、癌に苦しむ少年「セルゲイ君」の父である・ユースさんと、直接やりとりしながら、彼の支援を開始した。今まで「開店休業」状態になっていた<名古屋>は、<伊那>とともに、<チェルノブイリ支援・宮城>のご協力も得ながら、久しぶりに大きなプロジェクトである「ナロジチ病院の給水・給湯設備支援」を展開し始めた。また、<富山>や<岡崎>からも、「自分なりに取り組みたい」「もう一度立ち上げたい」という声が届いている。

それぞれが、地域にみあった独自のスタイルで活躍する事により、これらのプロジェクトや活動が実を結び、少しでも、被災者の人達の力になればと思う。ウクライナは、これから厳しい寒さに向かう。一人でも多くの子ども達が、病気に負けず、新しい年を迎えて欲しい。(山盛)

おねがい・・・・・・・・・・

カードキャンペーンの開始に伴い、全国各地から送られてくるメッセージカードの整理作業を事務所でを行います。コタツに入って、語り合いながらの楽しい作業です。是非、ご協力下さい。

事務所での作業は、「月・水・金の11時から15時」です。

お知らせ

- ◇コバレフスカヤさんの「講演ビデオとテープ」貸出中…500円/回(送料別)
 - ◆救援・中部のTシャツ…1,500円/枚。ステッカー(好評!)…200円/枚
 - ◇絵はがき集(子ども達から届いた手紙や絵)…300円/1セット・5枚入
 - ◆「たった一回の原発事故で」(救援・中部編 地湧社)…500円/冊
 - ◇「とどけウクライナへ～私たちの救援日誌」(飯野精 八音館)…1,600円/冊
 - ◆「ネチポレンコさんと小児科医・ライサさんの講演録(朝刊の翻訳)」…350円/冊
 - ◇「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」(フィルバドリ嬢・丸)…1,300円/冊
- ※おかげさまでテレホンカードは完売となりました。ありがとうございました。

救援・中部までお申し込みください!

あなたも維持会員になってください。

チェルノブイリ救援・中部の活動を続けるために、事務局の維持費用が必要です。是非、事務局維持会員になってください。

☆ 維持会員会費 10,000円/年(または、1,000円/月)

(※通信欄に、“維持会員費”として、救援・中部の口座にご送金を。)



- *今年、最後のポレーシェが出来上がった。いろんな意見が出て来ているようだが、来年はどんなポレーシェにしようか・・・と。(編集長 まや)
- *産廃問題に絡む御嵩町長のテロ事件、福祉を食物にした厚生官僚の汚職、遺伝子操作による食品の表示義務付けを見送ると告げる朝刊、どこを見ても暗い話題ばかり。支援者の暖かい心に救われる。(幸)
- *夕日を見ながら、彼の地ウクライナを想う。11月なかばを過ぎると冬だという。生活の厳しさに、寒さが一層身にしみる事だろう。暖かい日本から、暖かい心を送りたい。(K)
- *名古屋国際センター(NIC)3Fの資料室で、チェルノブイリに関するビデオを発見!!無料で見る事ができますヨ。でも、貸し出しはダメなんだって。(美)
- *郵政省ボランティア貯金に「活動の中間報告」(全28ページ)と「活動の一部変更の問い合わせ」(全49ページ)を、外務省の支援委員会に「事業変更承認申請書」(全34ページ)を作成して提出しました。ふう～、寝不足です。(J)
- *編集委員会をさぼってゴメン。次は、私が主役でやります。(I) (笑)